

學方經義應慶  
醫學圖書  
庫文化士富

下



×

d 8

11

津波私録卷之十目次

腸部

上焦部

中焦部

下焦部

經部

津部

婦人門

子門部

子宮部

胎部

子臟部

胎部

胎衣部



東京市立

1001

490.9

Do-2

3

No. 1362



導竅私録卷之下目次

腸部小大

上焦部及下焦

中焦部

下隔膜部

經部

絡部

睪部

精室部

津液部

脂肪部

婦人門

子宮部

子嗣部

子臟部

陰閉部

胎衣部

醫藥藏庫



富士川文庫

1007

臍帶部

胡亥

妊娠部

子胤

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮

子宮



導竅私録卷之下

備後内小出龍君德著

男小信近義

播磨森川孚信卿

門人

美作山田哲俊碩

校全

腸部

俗ハラハタト云

腸ハ其質厚膜ノ索ニシテ其内空シ。上

胃ノ下口ヨリ起リ。下ニ肛門ノ界ニ至ル。

其長ク凡ソ。二丈七八尺許リ。其上口ハ



勾カリテ。胃ノ下口ニ属ス。胃ノ下口ヨ  
リ下<sub>モ</sub>凡ソ四五寸許リヲ。幽門ト名ク。而シ  
テ右肋内ヨリ左ニ嚮ヒ。斜ニ下リテ臍  
上ニ迂廻シ少腹ニ屈曲ス。此ノ間凡ソ  
二丈二三尺許リヲ小腸ト名ツク。經曰  
小腸者受盛之官。化物出焉。又曰廻運環  
反十六曲。云云 腸胃篇 其小腸ノ下口ハ。右  
ノ少腹内ヨリ還リ上ル。ソレヨリ肛門  
ノ界マテ。凡ソ五尺許リヲ大腸ト名ツ

ク。大腸ト。小腸トノ界ヲ闡門ト名ツク。  
抑<sub>モ</sub>膽管ノ端ト。中焦ノ端ト。會同シテ。幽  
門ニ入ル。此所ヨリ闡門ニ至ルマテ。凡  
ソ二丈二三尺ノ間ハ。索膜ノ色白クシ  
テ奘ナリ。此間ニハ。許多ノ微細脈アリ  
テ出ツ。是所謂下焦道ナリ。即チ氣血津  
液ヲ出スノ脈ナラン。上ノ方ハ。膜脈尤  
モ多シ。下<sub>モ</sub>ニ至ルニ隨テ。漸々ト脈數減  
ジテ盡<sub>ツク</sub>。按スルニ。上邊ハ。水穀始テ化シ



テ精液ヲ出スル最モ多シ。故ニ脈管モ亦多キナルヘシ。下ニ至ルニ隨テ水穀化シ盡シテ。精液ヲ出スル漸々ニ減リ糟粕ノ多クナル。故ニ脈管モ亦少キナルヘシ。而シテ其糟粕ハ闌門ヨリ大腸ニ入ルナリ。釋名曰腸暢也。通暢胃氣也。腸囊ヲ剖テ其裡面ヲ察スルニ。許多ノ皺襞アリ。恰モ石磨ノ眼ノ如シ。是又胃ヨリ受ル所ノ水壳ヲ化制スルノ設

テナラシ。按スルニ常ニ飲食ヲ過多シ。胃腸充滿スレハ。裡面ノ皺襞伸。皆緩ニ運動ノ機又ルク。化制ノ力不足。自然ト精液ノ貢キ乏シクナリ。故ニ五臟衰テ病ヲ生スル。多端ナルヘシ。大腸ハ。屎糞ヲ素ナリ。其質厚キ膜ニシテ。長サ僅ニ五尺許。之ヲ小腸ニ比スレハ。差太クシテ。質モ厚ク強。故ニ大腸ト云ナラシ。古ハ小腸ニテ。小腸



大腸ノ上口ハ右少腹内ニアリテ、小腸ノ下口木接シ。右腹ヲ上リ、肝臓必下ヲ過テ、左ニ向ヒ。胃ニ傍テ斜ニ脾下ニ抵リ。曲リ下リテ、左ノ少腹ノ下ニ至リ。復勾カリ上リ、曲リ下リテ、少シ直行シテ、肛門ニ臻ル。其間大約三四寸許ヲ直腸ト言フ。ソレヨリ肛門ノ部ニ至テ、長サ大約七八寸。圍ニ凡ソ一尺許リ。常ニハ縮ミテ、提燈ヲ疊ミタルカ如シ。色鮮紅

ニシテ軟ナリ。若其人怒張スルカ、又ハ精氣虚シテ、肛ノ脱出スルコトアリ。余偶大脱肛ヲ視ル。恰モ弓張提燈ノ火袋ヲ牽キ伸シタルカ如シ。節々重々トシテ、昂然アリ。其長サ大約一尺餘。腫脹シテ太々大ナリ。物之ニ觸レハ痛ミニ堪ヘズ。其他、肛脱四五寸バカリノ者ハ、間々多シ。又脱肛ノ斂リ難キモノニ逢バ、近來外科者流之ヲ切斷スルモノアリ。太



夕麤妄ト言フベシ。脱肛ヲ切断シテ後  
下利不止サレ。凡レ數十日。漸々羸瘦シテ。死  
スルモノ屢之レヲ看ル。知ザルベカラズ。  
同ク脱肛ニシテ痔瘡ヲ兼ルモノアリ。  
痔瘡ハ切断シテモ妨ゲズ。其病狀ヲ精  
察シテ。而シテ後。治術ヲ施スベシ。腸ヲ  
割テ觀之ニ。腸ノ裡面周邊ニハ。許多ノ  
環節アリ。此レ能ク糞塊運輸ノ節度ヲ  
宜シクスルモノ歟。經曰廻周葉積腸胃篇

大小ニ腸ノ腹内ニアルヤ。大腸ハ外側  
ヲ環廻シ。小腸ハ内邊ニ盤屈ス。然レ大  
腸ハ短ク。小腸ハ長シ。二腸ノ境。闌門ノ  
部ニ當テ。一個ノ小管アリテ垂ル。其長  
サ僅ニ二寸許リ。大サ小指許リ。其本ハ  
太ク。端ハ尖シ。宛モ蛇蟲ニ似タリ。其  
質ハ肉ニ如ク。其末端ハ尖リ微シ。ワ  
津液滴リ出タ。然レ此管ノ職掌難知。  
此管之古經ニハ不見。又和蘭ニハ此



レヨ虫腸十名ク。其質羅胞ニシテ津液  
滲出シ。膏腸ノ尿ヲ潤スト云。然トモ此  
說未タ穩當ナラズ。姑ク後賢ノ攷ヲ俟  
ツ。按スルニ。幽門ハ腸ノ長ク幽遠ニシ  
テ。其第一門ナリ。以テ。幽門ノ名ヲ得  
ル。闌門ハ。大小ニ腸ノ界ニ。遮隔アルヲ  
以テ。闌門ノ名ヲ得ル歟。上焦ノ府ハ。即チ營氣ヲ支配スルノ官

ナルベシ。其質ハ。薄膜管ニシテ。細ノ如  
キモノナリ。其形象ハ。雲烟ノ起リ上ル  
カ如ク。細長ニシテ。又結レタル紐ノ如  
シ。之ヲ引ケハ伸ビ。之ヲ弛ズレハ。稍ト  
ニ縮ス。所在ハ。脾臟ノ右側ニ連リ。胃府  
ノ後ニアリテ。下焦ノ府ノ上端ニ起リ。  
横膈膜ノ後ヲ經テ。脊脇ノ左邊ニ緣リ  
上ル。即チ腹底ヨリ。胸内ニ上リ行テ。左  
肩下ノ絡脈ニ屬ス。經曰上焦。出于胃上



口。竝<sup>レ</sup>咽<sup>ニ</sup>以上<sup>リ</sup>貫<sup>レ</sup>膈<sup>ニ</sup>而布<sup>ク</sup>胸中<sup>ニ</sup>。上<sup>ニ</sup>焦<sup>ノ</sup>筋  
脈。其附屬スル様子ヲ察スル<sup>ニ</sup>。營氣ヲ  
下焦ニ受テ。其氣液ヲ出シテ以テ温蒸  
シ。衛氣ヲ釀發シテ之ガ宣揚上達ヲ翼<sup>タス</sup>  
ケ肩下ノ絡脈ニ會入シ。心肺ノ兩臟ニ  
漑注シテ。迺チ血ニ化スル<sup>ノ</sup>資<sup>ヲ</sup>爲<sup>ス</sup>  
ヲ掌<sup>ル</sup>ルベシ<sup>ニ</sup>。又<sup>ハ</sup>筋<sup>ノ</sup>筋<sup>ノ</sup>筋<sup>ノ</sup>  
下焦部<sup>ニ</sup>其<sup>ハ</sup>筋<sup>ノ</sup>筋<sup>ノ</sup>筋<sup>ノ</sup>筋<sup>ノ</sup>筋<sup>ノ</sup>  
下焦ノ府ノ質モ。上焦ノ質ニ同<sup>シ</sup>。其初

無數ノ細管アツマリテ。小腸府裡ニ根  
サシ。下膈膜ノ間ニ湊合シ。終ニ其膜ノ  
後ニ出テ。總會シテ一囊トナル。  
其形狀ハ。纖細ニシテ。素絲ヲ聚タル如  
ク。玲瓏透徹ス。其管囊ノ太キ所アリ。是  
即チ下焦ノ府ノ以テ府タル所ナラシ。  
ソノ所在ハ。大經脈ノ後ニ並ビ。左腎ノ  
右側ニ在リ。其太キ處。大約小指許リ。又  
其端ハ。窄リテ細長ク。終ニ上焦ノ府ニ



接續ス。蓋シ上下焦ノ形狀ハ甚ダ奇異  
ナリ。脘ノ如ク亦氷條ノ如シ。林格又  
經曰。下焦、下漑、諸腸云云。下焦、府ハ諸ノ  
糟粕、水津ヲ下漑スルノ官ナルカ。  
中焦部  
中焦ノ質モ上下焦ニ異ナラス。即チ脘  
ノ膜ナリ。形狀ハ淡婆姑ノ葉ノ如シ。本  
ハ廣ク末ハ稍狹ク尖レリ。是ヲ上下焦  
ニ比スレハ、微シ厚ク色淡黃ニシテ微

紅ヲ帶タリ。所在ハ胃ノ下ニ横タハリ。  
其本ハ麥稈ノ如キ膜管ニテ。膽ノ管ト  
會同シテ。幽門ニ属ス。又末ノ狹キアタ  
リハ、脾ノ臟ニ附傍ヒ。下縁ハ下膈膜ニ  
連ル。其長ハ凡ソ五寸許リ。横ハ一寸七八  
分。厚ハ二分弱。而シテ膜ヲ以テ親シク  
胃ニ附着ス。是亦水穀ヲ化熟シ。其氣液  
ヲ出ス。トチ掌ルナルベシ。經曰。中焦出  
氣如露。又曰。泌糟粕、蒸津液。化其精微云云



按スルニ、中焦ノ膜ヲ以テ胃ニ附キ、其  
根管ノ幽門ニ着ク様子、其機巧微妙、誠  
ニ思義スヘカラサルモノアリ。其膜亦  
分下膈膜部 シモヲ、マク ワタツナキマク  
下膈膜ハ、即チ小腸膜原ナリ。其質ハ、ニ  
襲ノ厚膜ニシテ、形狀ハ管笠ノ如ク、又  
グルグル曲リ重リテ、螺ノシシノ如シ。  
其周圍ヲ度ルニ、大約三尺ニ寸許リ、其  
所在ハ、真中ハ臍部ニ在リテ、後ノ端ハ

腰ノ推ニ附ク。凡ソ幽門ヨリ、闌門ニ至ル  
迄テ、腸ノ盤廻スルニ隨テ、膜モトモニ  
屈曲シテ著キ傍フ。故ニ真中ハ圓平ニ  
シテ闊ク、外圍ハ カサ 切タルヤウニ皺タ  
クレタリ、其色純黃ニシテ、光澤アリ  
テ柔ナリ。又中央ノ闊キ所ハ厚シ、外端  
ハ漸々薄シ、經ニ之ヲ小腸膜原ト云龍  
按スルニ、下膈膜ハ專ラ小腸ヲ綴リ維  
キ、腸中ノ津液ヲ吸出シテ、之ヲ諸部ニ



注<sup>キ</sup>達スルヤウナリ。下焦ノ府ト。下膈膜トハ各無數ノ細管アリテ。俱ニ皆小腸府裡ニ根起ス。又按スルニ。下膈膜ト。下焦ノ府トハ。其質形狀略相肖タリ。而シテ下膈膜ハ。腹ノ前面ヨリ。諸腸ヲ綴リ繫キ。下焦ノ府ハ。腹底ヨリ諸腸ヲ綴ル。又其邊リ異形ナル細膜數多アリ。此レ之ナ。下膈。下焦ノ枝膜ナルベシ。

經部

チノユキミチ

經ノ質ハ膜脈ナリ。其形チ琴弦ノ如クニシテ強シ。其幹大サ食指許リ。白色ニシテ光澤アリ。蓋シ氣血流動ノ路徑ナリ。其根ハ心臓ノ左室ニ起リ出テ。少シ上行シ。弓ノ如クニ曲リテ。肺ノ後ニ向ヒ。乃チ岐レテ四肢ト爲ル。其二。喉ノ左右ニ行キ頸ニ上リ。又岐レテ前後頭面ニ行ク。前ハ人迎動脈。後ハ天窓動脈ナリ。其二。左右缺盆骨下ニ行キ。肩尖<sup>ツキ</sup>ニ抵リ



テ。又分レテ内外膊臂ニ下リ。腕ニ至ル。  
 内ハ尺澤寸口動脈。外ハ小海動脈ナリ。  
 其幹ノ下行スルモノ。八髎骨ノ上廉ノ  
 前ニ出テ。分テ兩股ヲナシ。左右ノ股髀  
 ニ下ル。左右氣衝動脈是ナリ。又分レテ  
 前後脛ニ下リ。足趺ニ至ル。前ハ三里趺  
 陽動脈。後ハ委中大谿動脈是ナリ。凡ソ  
 此十二支別ハ。皮外ヨリ押テ知ルベキ  
 ナリ。

頭面

人迎ニ  
天窓ニ

膊臂

尺沢ニ  
小海ニ

脛脚

三里ニ  
委中ニ

是ヲ十二經ト謂フ。凡ソ其幹大小支別  
 シテ。千汙万派トナリ。一身臟腑。骨肉肌  
 膚。毛髮。ニ至ルマテ達セザル所ナシ。  
 經曰。經脈者所以行氣血而營陰陽濡筋  
 骨利關節者也。本藏篇 龍嘗テ經脈ノ  
 ヲ按スルニ。凡ソ爲醫ノ道。經脈ヲ察ス  
 ルヲ先務トス。之ヲ察スルニ法アリ。曰  
 人身之内景ニ熟スルニ在ルノミ。



絡部

絡脈ノ質モ亦膜ノ素ナレ氏。經脈ヨリハ稍薄ク更ニシテ弱ナリ。其色モ經脈ニ同ク白ケレ氏。薄キ脈中ニ濁血ヲ含ム故ニ外ヨリハ青色ニ見ユルナリ。其上幹ハ頭頸及臑臂肩背諸部ヲ縈絡スルトコロノ無數ノ細血絡。天窓ノ下ニ湊會シテ一幹トナリ。大經脈ノ前ヲ下ル。其下幹ハ兩脛及腰腹諸部ヲ羅織ス

ルトコロノ無數ノ細血絡。臍下三寸所ニテ湊合シ、一幹トナリテ。大經脈ノ後口ニ並ヒ。腎間ニ當テ大經ノ右ニ出テ。肝ノ背<sup>ウラ</sup>面<sup>テ</sup>ニ傍フテ。膈膜ヲ貫穿シテ上リ。天窓ノ下ニテ上幹ト合シテ。一<sup>下</sup>大幹トナリ。心ノ右室ニ歸入ス。其大幹ノ大サ經脈大幹ニ等シク。形モ亦相同シ。絡脈ハ是周身ノ勞血濁血ヲ心臓ニ輸リ復ラスノ脈ナリ。經絡ニ大幹及支脈ニ



至マテ。管中各々半月形ノ膜辨アリテ。  
宛モ竹ノ根鞭ノ如シ。是又能ク開閉シ  
テ血ノ往復ヲ節スルタメナルヘシ。  
經絡ノ二脈。各々周身ヲ羅織スル。絲  
瓜ノダシ袋ニ似タリ。又織物ノ經緯  
シテ。布帛ヲ成スニ異ナラス。經曰何以  
知<sub>下</sub>經脈與絡脈異也。曰經脈者常不可見  
也。其虛實也以氣口知之。脈之見者皆絡  
脈也。云云 經脈篇 又曰經脈爲裏支而橫者

爲絡。絡之別者爲孫。盛而血者寫之。虛者  
飲藥補之。又曰。刺絡脈者必刺其結上。甚  
血者雖無結急取之。以寫其邪。而出其血。  
留之發爲痺也。云云 經脈篇 又曰當數者爲  
經。其不可數者爲絡。云云 脈度篇 按スル  
ニ當數トハ其數少キノ謂ヒナリ。不可  
數トハ其數多キノ謂ヒナリ。凡フ經脈  
ハ支少ク絡脈ハ支多シト知ルヘシ。  
絡脈ニ瘀血留滯シ。久クシテ痺症ヲナ



スモノアリ。又種々ノ異症ヲ發シ危急  
ニ臨ムモノ<sup>リ</sup>。徃々有之。早ク其脈ヲ刺テ  
血ヲ寫シ去リ。奇効ヲ得ルコト不少。實ニ  
濟世ノ一手段ナリ。

畢部

フクリタマ  
キンタマ云

畢ハ陰囊中ノ丸ナリ。是レ男子ニ在テ  
腹内ヨリ出來リテ。陰莖ノ下ニ下垂ス  
ル所ノモノナリ。故ニ又コレヲ垂ト云。  
其外包ノ膜ヲ剥テ之ヲ視ルニ。其形龜

卵ノ如クニシテ二枚アリ。故ニ又卵ト  
云。卵ヲ剖テ之ヲ視ルニ。其質ハ<sup>リ</sup>。如  
クニシテ。白色微黃ヲ帶フ。左右共ニ繫  
脈アリテ。上<sup>レ</sup>腎間ノ<sup>リ</sup>。經絡ニ大脈ヨリ支  
別<sup>レ</sup>。下<sup>リ</sup>來<sup>リ</sup>テ。畢ヲ絡ヒ。斜行シテ精  
室ニ入ルナリ。是即チ畢ノ紐ナカラ。精  
氣ノ通運ナルベシ。又畢ヨリ精室ニ入  
ルノ膜管アリ。經ニ此ヲ畢系ト云。四時氣論  
按スルニ。畢ハ腎間ノ精氣ヲ收藏シテ



之ヲ精室ニ輸送シ。以テ生々ノ資用ト  
爲ス。其ヲ職トスルナラン。故ニ外腎ト  
云。本草綱目 人身ノ中ニ於テ。陰莖ト睪丸  
ホト。妙用アルモノハナシ。父ヨリ子ヲ  
生シ。子ヨリ孫ヲ生シ。嗣續連綿シテ天  
地ト長久ヲ争フモノハ。只此ニ物アル  
ニ由ル。豈慎重セサルベケンヤ。經曰莖  
睪者身中之機也。甲乙經卷九

精室部

男子ノセイフクロ

精室ハ。其質柔ニシテ。凝脂ノ如シ。薄膜  
ヲ以テ之ヲ包ミ。小キ囊ノ如シ。長サ大  
約一寸餘。幅寸半ハカリ。所在ハ膀胱ノ  
下ノ兩側ニ附<sup>ツキ</sup>傍ヒ上ル。其形子<sup>ノ</sup>上<sup>ニ</sup>ハ廣  
ク下モハ狹シ。其下<sup>ノ</sup>末<sup>ハ</sup>又ニ個ノ細  
管トナリテ。終ニ膀胱ノ下ノ曲<sup>ノ</sup>計<sup>ノ</sup>タル  
處ヨリ尿管ニ合ス。經曰膀胱胞薄以懦。  
五味篇 此レ膀胱ニ属スル故ニ。膀胱ノ胞  
ト云フカ。此各一糸ハ。難章アリテ。註



左右ノ睪丸各一條ノ膜管アリテ。精室  
ニ連レリ。而シテ精室ヨリ膀胱ノ下口  
屈曲ノ處ニ属ス。其屈曲ノ内ニ各々細  
キ孔。別ニ一ツアリ。莖中ニ入ル。精室ヲ  
壓バ。其孔ヨリ精汁滴リ出ツ。以是視之  
男子ノ精ハ。此膜管ヨリ陰莖ニ通スル  
ヤウニ見ユ。古来ハ此膜管ハ。津液部  
津液部  
津液ハ。飲食ノ精粹ノ生ルトコロナ  
ル

ハ。皆腸胃中ニテ醸シ成レテ。之ヲ腎  
ニ輸リ。其淡キモノハ水脈ニ入テ。周身  
ヲ滋潤シ。其濃キモノハ液脈ニ入テ。腦髓  
ヲ培養スルナラシ。經曰。五穀精液和合  
而爲膏者内渗入骨空補益腦髓。云此即  
所謂液ナリ。又曰。腠理發泄。汗出溱々。是  
謂津。云云。此即所謂津ナリ。細カニ是ヲ  
分テバ。食ノ精液之ヲ液ト謂フ。液ノ質腦髓  
ノ部ニ詳ナ  
飲ノ純液之ヲ津ト謂フ。津ハ水ナリ。水



即子水脈アリテ。一身諸部ニ蔓延シ。  
流注セザル所ナシ。其脈甚微細軟脆ニ  
シテ。白色光澤アリ。脈中ニ水充滿スル  
トキハ。能クアラハルベシ。解剖ノトキ  
ハ見ヘガタシ。何シトナレバ。體中ノ水  
皆漏出テ。脈膜濡紙ノ如クニナレバナ  
リ。然レモ知之仔細ニ繹レバ見ユルナリ。  
按スルニ。衛氣通暢セザレバ。水脈留滯  
シテ。水腫ヲ患フベシ。又按スルニ。淚洩

津唾ハ。其部々ヲ滋潤スルモノナレド。  
若シ衝逆ノ氣甚タシキ時ハ。淚洩唾沫  
出ルヲ頗ル多シ。其多キト。絶テ出デザ  
ルト乾燥スルトハ。皆常ヲ失スルモノ  
ナリ。又其氣蒸々トシテ。腠理ニ發泄ス  
ルモノヲ汗ト謂フ。即チ津ナリ。又小溲  
及ヒ屎糞ノ如キハ。全ク津液ノ餘渣ナ  
レド。亦其通利ノ常度アリ。大過不及ハ  
俱ニ常ニ非ト知ルベシ。



脂肪部

アブラ アブラカワ アブラニク

脂肪ハ黄色ニシテ蠟ノ如シ。全身ノ皮  
下ニ周ク布ク所ノアブラ也。脂肪下津。下  
混同レテ。周身ノ肌肉ヲ豊盈ナラシム。  
凡テ人ノ肥瘦ハ。此脂肪ノ盛衰ニ由ル。  
尤筋骨四肢爪髪ニ至ルマテ。津脂肪ノ潤  
澤ニアラザレバ。屈伸自由ナルコトアタ  
ハス。若シ脂肪乾燥スレハ。筋骨ハ。枯樹  
ノ如シ。又四肢ノ骨々ハ。甚タ偏小ナル

モノナリ。肉モ亦薄片ニシテ。親シク骨  
々ニ附クバカリナリ。盖シ人體ノ豊満  
ナルハ。脂肪ノ厚キナリ。嘗テ肥満シタ  
ル。カ者ヲ解テ之ヲ視ルニ。其脂肪ノ厚  
サ。寸餘アリ。又瘦タルモノヲ解テ之ヲ  
視ルニ。其脂肪甚タ薄クシテ。僅ニ黄色  
ノ紙ホドナリ。按スルニ。世ニ黄胆病。黄  
胖病。ト稱スルモノハ。濕熱鬱蒸シテ。彼  
ノ脂肪ノ色人。外ニ發見スルモノナリ



べし。之ヲ治スルノ藥ハ。即チ茵陳大黃  
梔子。麝皮等ナリ。此等ノ藥品皆脂肪ト  
氣色ヲ同フス。此レニ通利ノ藥ヲ合テ  
數種ノ方アリ。蓋シ皆此氣色ヲ取テ以  
テ。彼ノ氣色ニ達シ。鬱蒸ノ濕熱ヲ通利  
セシムルナラズ。因テ古今ノ醫藥方證  
ハ。諷。尤モ深切ナルヲ知ルベシ。ト云  
子筋部。肉子亦筋。筋ノ類ニシテ

筋ノ質ハ膜ニ似テ膜ニアラス。肉ノ類ニシテ  
全ク肉ニモアラス。色白ク緊強細長ニシテ木  
綿糸ノ如ク亦經脈ニ似テ内實ス。其本ハ骨節  
ヨリ起リ一身ヲ維シ。運動ニ隨テ盈縮シ。カヲ  
現スルモノナリ。但筋ニ兩種アリ。其一ハ胸骨  
ヨリ起リ。一身及股肱ニ走リ五指ニ達ス。其數  
筋ノ中手足ノ末ニ達スルハ各ニ条ナリ。其餘  
ハ皆肉中ヲ穿テ通シ。凡肉中ニテ分散シテ末  
ニ達セス。又其一ハ肉ヲ維絡ス。各處骨節ヨリ



起リテ薄ク廣カリテ肉ヲ包ミ隔ツ。此筋薄ク  
廣カレル處ハ膜ノ如クシユレ氏其終リ。必又  
収マリテ元ノ筋トナリテ骨節ニ属スルナリ。  
又肉中處々ニタマリテ筋ノ形ヲ現ス。此ハ筋  
ノ分派ノ處ナリ。凡肉ト肉ト相分レテ分段ス  
ルハ皆此薄筋ナリ。其見ヤスキハ腕脛ノ肉ナ  
リ。腕脛ハ筋五六條アルハカリニテ外ニ肉ナ  
シ。肉ハ筋中ニ生シテツマレタリ。中程ニテ  
ハ肉トシユレ氏兩端ハ筋ハカリニテ骨節ニ

属ス。各分別シテ相連ナラス。其他モ是ニテ推  
テ知ヘシ。異ニ外ニ大同也。疑フヤ

頭頸及兩手ニ赴ク筋數條。胸骨ト大椎ト大椎  
ノ上節トヨリ起ルナリ。腰背及兩足ニ赴ク筋  
亦數條。背骨ノ第十九節ト第二十節トノ兩節ヨ  
リ起ル。蓋シ背骨ノ中ニ髓ノ通道アリ髓ハ則  
チ筋ノ根ナリ。公支派根委ハ筋ノ根ナリ又  
經曰諸筋者屬於節。亦曰肝之合節也。五藏  
生成論  
凡ソ身體ノ運動屈伸挈推弛張等皆諸筋ノ掌



ル所ナリ。右各處ニ舉ル所ノ經絡及諸筋ノ如キハ凡テ其大畧ノミ。其分支派別委クハ記シカタシ。又其細派ニ至テハ目ノ及フ所ニモアラス。畢竟一身指ノ端マテモ經脉筋脉ノ徃届カ又處ハ無トシルヘシ。今余カ圖記スル所ハ通人大抵ノ摸樣ナリ。若シ精クイハ、人々ニテ小異アルヘシ。小異ニ依テ大同ヲ疑フナカレ。

### 夫婦入門

内景ノ男女ニ於ル。大二同フシテ。小ク異ナリ。凡、男子ハ骨大二メ剛強ニ。女子ハ骨小二メ軟弱ナリ。獨リ乳ノミ其豊大ナル。男子二十倍セリ。是其大体ニシテ皆人々ノ能ク知ル所ナリ。而シテ子宮ト陰門トハ。其男子ニ異ナルノ最ナリ。ハ氣ヲ

### 子宮部



子宮ハ、一名血室ト曰フ。亦胞トモ曰フ。其質ハ厚キ膜囊ニシテ。大サ家鴨ノ卵ノ如シ。其形上底ハ闊ク。下口ハ窄リ。大約膀胱ニ似テ膀胱ヨリ差大也。所在ハ大腸ト膀胱ノ間ニ介レテ。下口ハ陰門ニ向フ。其左右上側即子。子門ノ属スル處ナリ。子宮常ニハ綫縮シテアレトモ。孕ンテ。月日ヲ經ルニ隨ヒ。伸張シテ闊大ニナル也。

婦人ハ有餘ノ敗血月々子宮ニ滴瀝シテ。期ニメ流レ去ル。是ヲ經水ト謂フ。又月水氏謂フ。故ニ子宮ニ血室ノ名アリ。

傷寒論

子門部

花腸トモ云  
新書ニ喇叭管ト云是ナリ

子門ノ質モ。薄膜ノ管ニ。テ一個ノ索ノ如シ。長サ大約六七寸。太サ細筆ノ管許リナリ。子宮ノ上底ノ兩側ニ接シ。斜ニ長ク蟠リ。子臟ヲ擁ヘタリ。其本ノ子宮



二属スル處ハ細シ。末ハ漸々木大クナ  
リテ。端ハ宛モ開花ノ如シ。故ニ亦花腸  
ノ名アリ。其花中ヨリ。通孔ハ見テ。子宮  
内ニ達ス。子葉數ハ管ニテ大圓ノ葉ノ  
子臓部 西洋コレヲ卵巢ト云名狀ヨク稱ヘリ  
子臓ノ質ハ。脂膜ノ如キモノニテ。形チ  
豆ノ莢ノ如シ。黄白色ニメ。室ニ寸許リ  
ナリ。斜ニ子門ニ傍テ。子宮ニ附ケリ。薄  
膜アリテ。子臓ヲ包裹ス。其膜ヲ剥キ。許

多ノ卵アリ。白色ニシテ。其莢ニ連リ粘  
ク。其卵大約豆粒許リ。又小ナルハ。米粒  
許リナリ。卵ノ數。左右各三四顆。或ハ五  
六顆アルモアリ。蒲即加兒曰。其數多キ  
モノハ。二十許モアリ。ト按スルニ。絶ヘ  
テ卵ナキモノハ。稀ナルヤウナリ。  
卵ノ子臓ニアルヤ。恰モ豆ノ莢<sub>サチ</sub>仲ニアル  
ルカ如シ。又兩腎間ノ大絡脈。大經脈ヨ  
リ支別シテ。子宮子臓。及子門ニ連ル許



多ノ微細脈アリ。是又氣血津液ノ通徑  
ナルヘシ。又西醫開ノ大筋細大筋細  
陰門部ニハ、  
陰門ノ質及形狀ハ、筆スルニ及バズ。唯  
其詳ニスベキモノハ、尿孔ト産門ナリ。  
同ク陰門内ニ在リ。而シテ尿孔ハ前ニ  
アリテ内子膀胱ニ通シ。産門ハ後ニア  
リテ内子子宮ニ通ス。故ニ婦人ヲ仰臥  
セシムレハ、尿口ハ前ニテ上ニアリ。

産戸ハ後ニテ下ニアリ。此ニ穴ト子宮。  
膀胱ノ様子ヲ明ニセザレハ、臨産及小  
便閉ノ症ニ逢ト雖モ、其術施シカタク。  
又精液ハ陰門中ニアル許多、爰間ヨリ  
滲リ出ツ。又陰門ヲ割テ見レハ、精液ノ  
管タルモノハ見ヘス。上ニハ精經精絡  
ノ支別アレモ、下ニ至ルニ隨テ、漸々微  
細ニナリテ見ルベカラズ。其類自  
女子大抵十二三歳以下ハ、陰門中ニ膜



アリテ。子宮ノ下口ヲ圍ミ。閉ツ。十四五  
歳ニシテ。月經行<sup>ル</sup>トスル時。其膜自ラ  
破裂シテ。經水流出ス。是亦解剖ノ關ラ  
ザルトコロニメ。世人ノ熟知スル所ナ  
リ。

胎衣部

俗ニ胞衣ト云 又エナトモ云

胎衣ノ質ハ。三襲ノ膜囊ニテ。其形子圓  
ニシテ廣シ。纖細ノ血脈。縱横錯綜シテ  
恰モ織リ成ガ如シ。色淡白ニシテ。微紅

ヲ帯ベリ。而シテ小ナルモノハ。五六寸。

大ナルモノハ。七八寸。又子<sup>女</sup>産論ニ孿

胎ノモノハ一尺アリト云ヘリ。胎衣ハ

モト。卵ノ混沌タルトキヨリ。十月マテ

ノ間。子宮中ニアリテ。胎兒ヲ包護スル

ノ官ナルベシ。蓋シ胎衣ノ中央凸ニシ

テ厚キ處。子宮ニ屬シ。其凹ナル處臍帶

ノ所著ナリ。

臍帶部

俗ホソノオト云



臍帶ハ其質厚膜ノ橐ニシテ長キ紐ノ如シ内ノ通竅大約小指ヲ容ルベシ其本ハ胎衣ノ凹ナル處ヨリ起リ胎兒ノ臍ニ繋<sub>リ</sub>落ス是母ノ精血ヲ傳送スルノ通管ナルベシ臍帶ノ長サ大約二尺餘リ淡白色ニシテ赤筋織<sub>リ</sub>縈ヘリ且マテ部 妊娠門ハ一ノスルニハ一ノ部ニハ凡ソ妊娠ノ原始ハ陰陽交接ノ際ニアリ蓋シ男子ノ精氣女子ノ卵ニ注射ス

レハ其卵已ニ子臍ヲ離レ花腸ヲ經テ子宮中ニ舍ル而シテ子宮中ニアリテ日月ヲ歷テ其兒ノ軀漸々ニ成ル成ルニ随ツテ卵殻モ脹大ニナルト見ユ又按スルニ臍帶ハ譬ハ柿ノ蒂ノ如シ柿ハ其樹ノ精ヲ蒂ヨリ送り養テ柿實豊熟ス人ハ其母ノ精血ヲ胎衣へ受ケ臍帶ヨリ傳送シテ胎兒ヲ成育スルナラシ又按スルニ胎子ノ子宮ニアルヤ宛



毛。獨頭栗ノ其殼肉ニアルカ如シ。秋霜  
降ツテ。子熟スレハ。其苞殼綻ヒテ。栗子  
墜ツ。人ノ生ル、毛亦如是カ。胎子ノ子  
宮中ニ在ル。十月ニ滿レハ。即チ宮戸開  
ケ。胎衣綻ヒ。内膜裂テ漿水逆リ。兒隨テ  
生ル。而シテ後。卵殼脫出ス。是即チ胎衣  
ナリ。反懸テ其兒ノ根斷クニ如シ。如シ  
又擧體白膜ニ包マレナガラ。生ルトア  
リ。世俗是ヲ囊兒ヲ白ヒ。又德利兒氏曰

フ。産婆即チ。兒ノ頷下ニ當ル處ノ被膜  
ヲツツ辟ハ。兒出テ膜ハ自ラ胎衣中ニ縮入  
ス。余ガ友人平岡子直。産科ヲ善ス彼ノ  
囊兒ヲ親見スルト尤詳悉ナリ。其形狀  
余ガ所見ト異ナルトナシト云。  
又按スルニ。妊娠十月ノ間ハ母ノ精血  
ヲ胎衣ヨリ輸送シテ。養ヒ育ツルヤウ  
ナリ。其所以ハ。胎衣ニ一條ノ管アリテ。  
兒ノ臍ニ属シ。臍ヨリ亦管アリテ。肝ニ



属ス。肝ヨリ心ニ往クノ脈アリ。心ヨリ  
経絡脈アリテ。一身ニ往還シ。周遍繋絡  
スルモノ。大人ニ異ルヲナシ。  
又按スルニ。臍帯ハ。兒生レテ後。六七日  
ニシテ。脱シ去ル。又兒ノ臍ヨリ肝ニ属  
スル一條ノ管ハ。生涯アルモノナリ。然  
レ既生後ハ。古クチトナリテ用ナキモ  
ノヤウナリ。既生後ハ。乳哺ヲハジメ。飲食口ヨリ  
既生シテ後。乳哺ヲハジメ。飲食口ヨリ

入テ。胃腸ニ納マリ。其精粹ナルモノ。ヒ  
リテ。膽嚢ニ萃マリ。融化シテ。肝ニ入テ  
血トナリ。心ニ送ル。本説ノ如シ。盖シ  
心ハ脈ヲ主リ。肝ハ血ヲ主ル。故ニ味分  
娩前ハ。母ノ精血ヲ臍ヨリ肝ニ送リ。肝  
ヨリ心ニ送ル。既ニ分娩スルノ後ハ。血  
ヲ膽ヨリ肝ニ送リ。肝ヨリ心ニ送ル。以  
是觀之ハ。血ノ心ニ赴クモノ。肝ノ關サル  
トナシ。故ニ肝ハ血ノ源ナルベシ。

詳説ハ肝ノ部ニ見ル



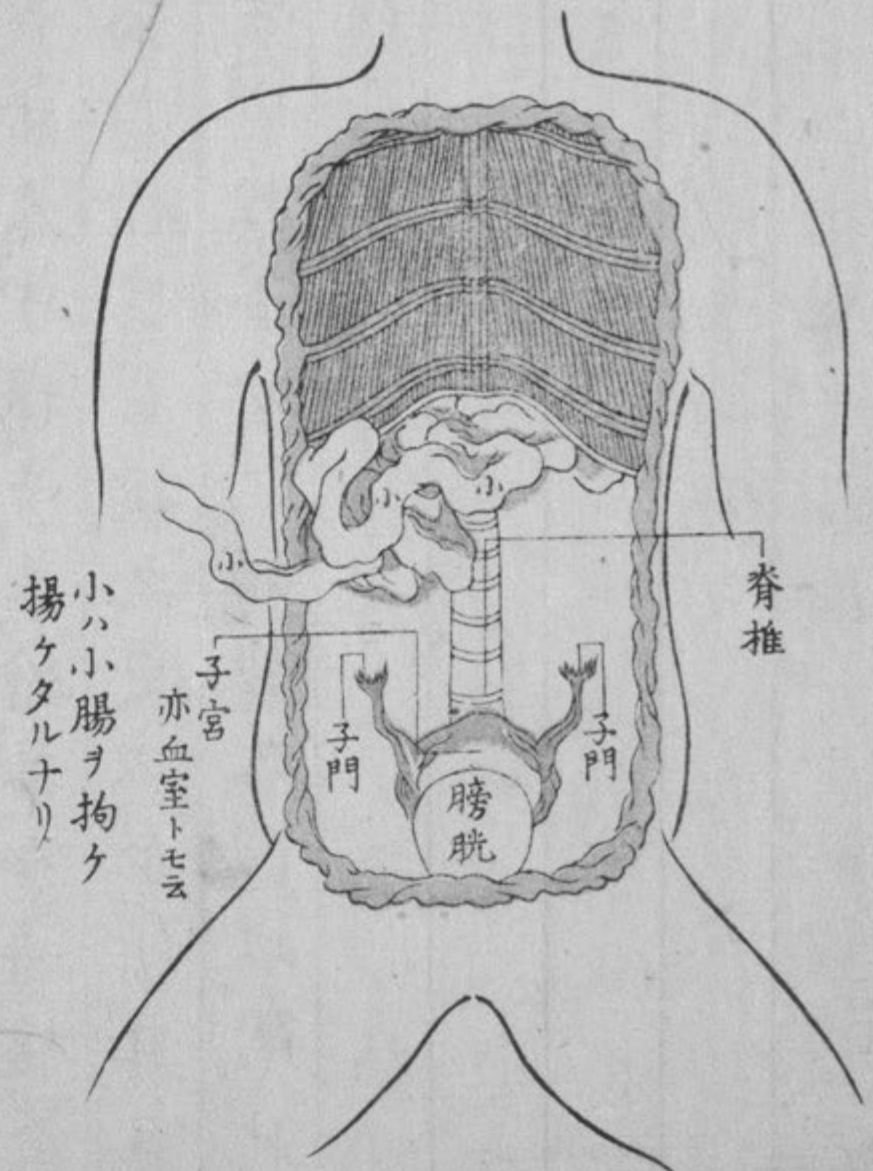
解体記事

一婦人年三十有四。形軀長大。肌膚豐滿。其性酷淫。有故遭刑。實某年秋某月日也。余請其屍於官。解而視之。將下刀。仰臥之於板上。其腹脹大異常。既解之。則孕矣。胎兒毛髮未生。九竅未通。頭大而四肢甚小。自頂至踵。其長六寸強。狀如泥塑人。亦復解之。五臟六腑具。體而太微。是日旁觀捉刀者。醫友中環。中宜。及門人某々。其他

觀者。凡幾十人。中環。旁善繪事。澄時援筆寫其真。余亦借其圖摸之。更以余所目見。借畫師吉川松谷分門部製各圖。以附此書云爾。



子宮膀胱之位置ヲ見ル



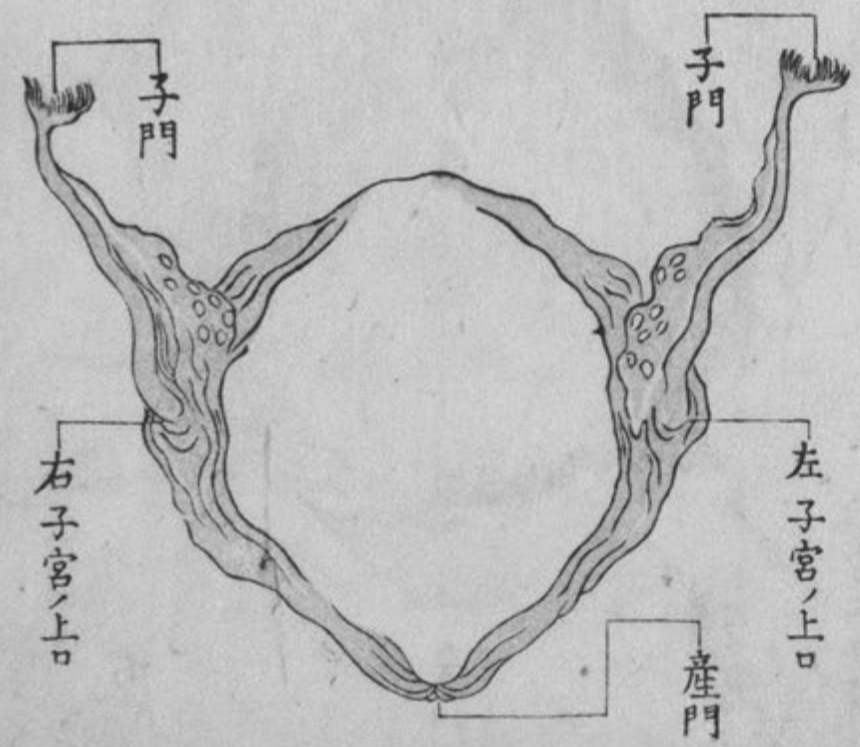
小腸ヲ揚ケタルナリ

子宮亦血室トモ云

子藏子門之全形

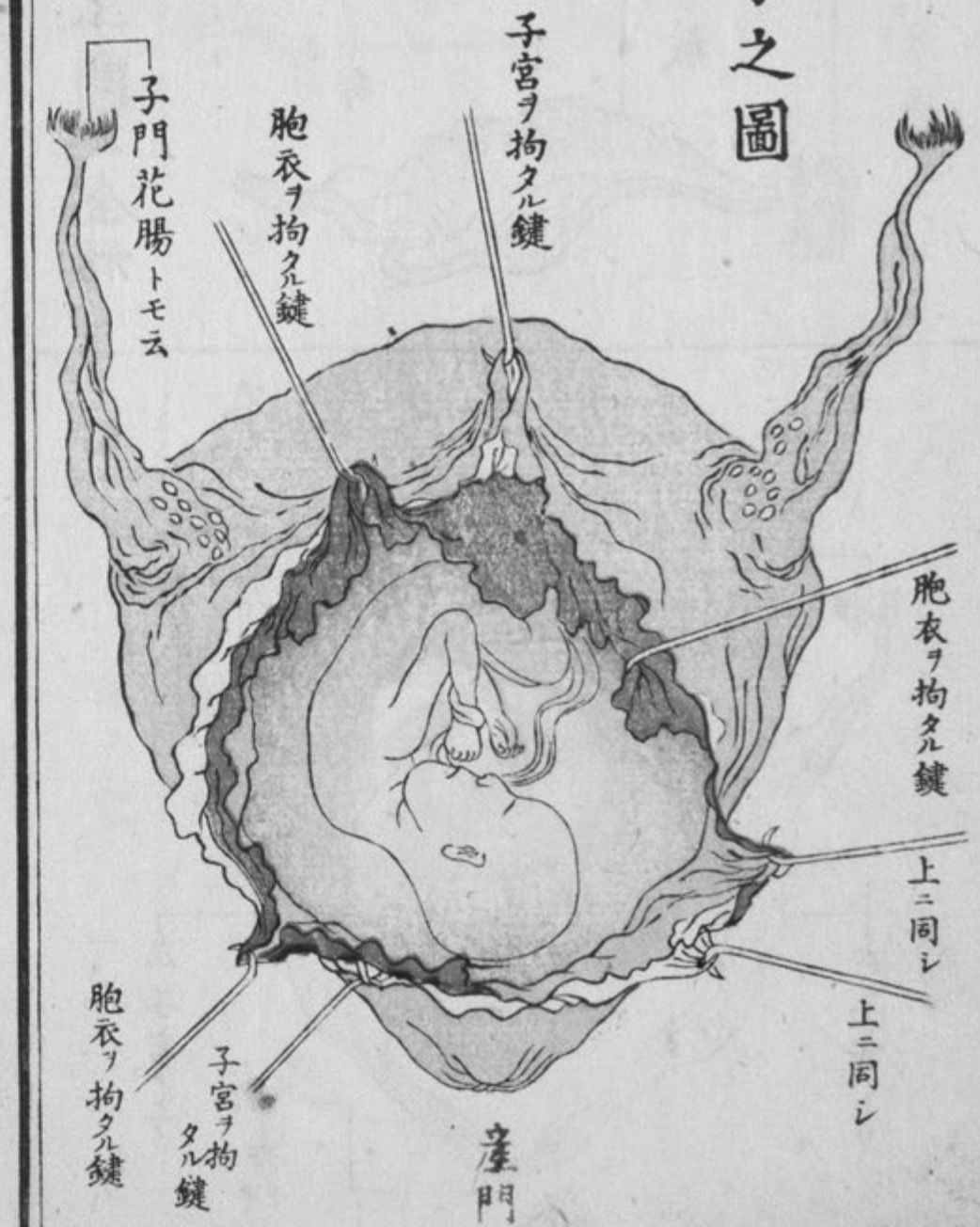


子宮之全形





胎孕之圖



後序



物實也。理、處也。論理而徵之於  
 實。理於是始實。百事皆然。至於  
 藏象之理。尤不可不實也。友人  
 君德小出。君世業醫。多年就素  
 難內景諸書。摸索藏象骨度。然  
 諸家註說。精粗綜錯。甲可乙否。  
 莫知適從。於是乎慨然發憤於



徵之於實物也。天保紀元以來  
屢請官解屍男女凡十有餘人。拆開  
心膈剖視肺肝。而後乃今得深  
辨藏象之理矣。頃為後學著一  
書述其所日觀。名曰導窾私錄。  
君之意未嘗廢素難諸書之旨。  
而唯徵理於實之為務。故或據

徑辯同。或錯徑合異。毫不加臆  
度。其為書也。國字述之。圖解審  
之。一閱卷而藏象之位置。徑脈  
之機關。亦未始終燦乎如視諸  
掌。使學者無知所歸。簡不失要。  
方今內景之書。不少。然得其實  
徵而有助乎醫術者。此書為最  
乎。君將命諸剞劂。使余一言。余



知君苦心。故不敢辭。識數語於  
 其末。德德之如此。夫此書為景  
 天保丙申之歲冬至。簡不悉要  
 備後。平岡惟質撰并書





